

寄付

- ・ 館乃様
- ・ 田中あやこ様、坂本紀子様
- ・ 株式会社フレーベル館様
代表取締役社長 吉川隆樹様
- ・ 伊東徹様
- ・ 小林様
- ・ 小野田孝男様
- ・ 渡辺綾様
- ・ 大石誠様



今年も、寒い冬がやってきました。12月に入り、気温が下がりはじめ、数年、風邪を引いていませんでしたが喉の炎症から、高熱がでてしまいました。検査インフルエンザ、コロナは陰性でしたが、数日間微熱が続き回復までに数日かかってしまいました。最近ではインフルエンザの流行により、学級閉鎖のでる学校も出てきています。感染には気をつけて日々を過ごしていきたいと思っています。

児童指導員 岩田 弘和



連絡事項	
身長	cm
体重	kg

川奈臨海学園 基本理念

子どもの最善の利益のため、子どもたち一人ひとりが尊重され、心身ともに健やかに育成され、将来健全な社会の一員として自立できるよう支援を行う

交流会

- | | |
|-------------|-------|
| 読み聞かせボランティア | きらめき様 |
| 木工ボランティア | 菱田夫妻様 |
| 学習ボランティア | 紀藤信哉様 |
| 散髪ボランティア | 野口伏美様 |
| | 伊石裕司様 |

コロナによる影響も落ち着きボランティアさんの様々な活動で子どもたちに楽しいひと時を提供していただいております。みなさまのご協力には大変感謝しております。

おしらせ



帰省期間

- 12月22日～1月 7日
- 2月 9日～2月12日
- 3月19日～4月未定

帰省については児童相談所の許可のもと、各御家庭へ連絡しておりますので、宜しくお願い致します。尚、予定されている帰省期間は、新型コロナウイルスの流行状況に応じて変更する可能性がありますので、ご承知おきください。

令和5年度

学園だより 秋号

第569号

『田子の浦にうち出でてみれば自妙の富士の高嶺に雪は降りつつ』

百人一首、作者は山部赤人の句です。富士山の初冠雪となる10月から11月ころは静岡への出張が楽しみでもあります。山頂に雪を被った壮大な富士山は絶景です。三島駅に差し掛かるあたりから富士川の鉄橋を通過しているあたりまでは撮影ポイントです。新幹線の車窓から撮るので、建物に阻まれること、鉄橋の欄干しか撮れないこともあります。毎回同じ写真は撮れません。雲に隠れてしまうことや行きと帰りでは全く違うこともあります。自然の面白さとその瞬間の出会い「縁」を感じます。

こども家庭庁の11月のオレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーンに合わせて、静岡県内、伊東市でも啓発活動が行われました。「子どもの未来を守ろう」、「児童虐待を防止しよう」、「児童虐待かと思ったら189に話しよう」というスローガンを11月18日の児童虐待

防止静岡の集いで行ったパレードで市民の皆さんへ呼びかけました。講演会ではケアリーバー（社会的養護経験者）の方の話の聞き、壮絶な体験を経て苦しい思いを整理して、笑顔で前を向いている姿にたいへん学ばされました。

このところ朝と昼の寒暖差が激しく寒い日もあれば、気温20度という日もあります。子どもたちの体調管理だけでなく職員も変則勤務の中、体調を崩さないようにと伝えています。

子どもたちの将来に向けて、身体と心の健康に保つこと。それに向かってできることを一つ一つ取り組んでいくこと。子どもたちの笑顔のため、職員とともに支援していきたいと思います。

施設長 竹居 昭子

男子ユニット ラフティング

天候に恵まれた9月10日。201・202ユニットの子どもと富士川へラフティングに行きました。海の近くで生活する私たちにとって川遊びは馴染みがなく、楽しみな中にも不安の声を漏らす子もいました。

現地に着き、インストラクターから講習を受けてラフティング開始。声を掛け合い、協力してボートを漕ぐ子どもたちの姿や、3メートルほどある岩から勇気を振り絞って飛び込む男の子らしい姿が印象的でした。



ラフティング後には豪華なローストビーフ丼を味わい、満足気な表情を浮かべていました。子どもたちからは「また行きたい!」と声が挙がっており、来年も計画を立てたいと思います。

帰りの車中では1日の疲れにぐっすり眠るかと思いきやラフティングの思い出話で盛り上がり、終始笑顔の溢れる外出となりました。

児童指導員 上原玲也



編集・発行

川奈臨海学園

〒414-0044 伊東市川奈 509-7

TEL 0557-45-0509 FAX 0557-45-5169

E-mail rinkai-g@ninus.ocn.ne.jp

URL https://www.saiseikai.kawana.jp

女子ユニット 富士急ハイランドに行ってきました♡

9月23日、203ユニットの子どもたちと富士急ハイランドへ遊びに出かけました。1週間前から雨予報でどうなるか心配していましたが、テルテル坊主と晴れ女の方もあり当日は快晴とは言えませんが何とか曇り空になっていました。

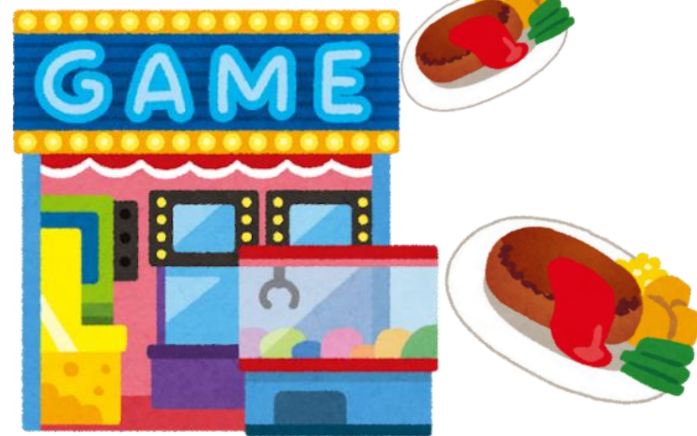
土曜日ということもあり園内は人で一杯でしたが、鉄骨番長、ナルトのアトラクション、観覧車などに乗ることが出来ました。新アトラクションの「ZOKKON」には皆で挑戦し絶叫しながら、楽しみました。日本一長い

サントムーン柿田川で買い物

9月16日、204ユニットの子どもたちを連れて三島方面へ出かけました。ブックオフでは、子どもたちの間で流行っている漫画や本などを購入できとても喜んでいました。

サントムーンのゲームセンターで、子どもたちが楽しみにしていた太鼓の達人をしました。自分にあったランクを選択し、それぞれが達人を目指し取り組む姿が微笑ましく思いました。

買い物の後、昼食はさわやかに行きました。整理券を事前に取りっていましたが混んでいたため、席に案内された時にはお腹の空き具合がピークに達していました。子どもたちは皆、さわやかで人気のげんこつハンバーグを注文しました。コロナ禍もあり皆で外食する機会がなかったため、子どもたちとの団欒を楽しむことができ良かったです。次回も楽しめるイベントを企画していきたいと思います。 児童指導員 上村 紗矢



トルネードポテトや、ディッピングドッツアイスクリームを食べ富士急ハイランドを満喫することが出来ました。

帰りの車中も興奮冷めやらず思い出話を花を咲かせましたが、やはり翌日には筋肉痛や疲労を隠せない様子でした。コロナも落ち着き始め、外出をする機会も増えてきましたので、自粛を頑張った分、思い出を増やしていく事ができたらと思います。 児童指導員 寺川 信晴



地域小規模あおぼ 八幡野秋祭り

日差しがまだまだ厳しく照りつける9月18日。あおぼの児童数名が伊東市各地区の中で最も早い秋祭りである八幡野秋祭りに参加しました。

大人から子どもまで地域の方々为主体となって、八幡野漁港から八幡宮来宮神社まで約2kmの登り坂で山車を引きました。Rくんは汗びっしょりになり同じ小学校に通う級友だちと一緒に「わっしょい！わっしょい！」と掛け声をかけながら登って行き、数回の飲み物休憩を挟みながら3時間ほどかけて神社まで辿り着く事ができました。最後は子どもたちにお菓子の詰め合わせが配られました。来年もこの祭りに参加したいと思います。 社会福祉士 加藤 優



小学生男子ユニット

10月28日、102ユニット小学生男子3名で、ホテルニュー岡部に温泉とバイキングを楽しんできました。大浴場や温泉が初めての子どもたちは、着いてからみんなソワソワし、興奮を抑えられない様子でした。

脱衣所に着くと、みんなの前で服を脱ぐことを恥ずかしがる様子も見られましたが、満を持して大浴場へ。しっかりと頭と身体を洗ってから入浴し、初めて入る大きなお風呂に感激している様子でした。身体も温かくなったところで、露天風呂へ。普段入るユニットのお風呂とは違い開放的な雰囲気子どもたちも笑顔があふれていました。



地域小規模わかな 秋祭り

10月7日に行われた鎌田神社の秋祭りに参加しました。4年ぶりの開催でわかな開設後初めての参加となる秋祭りです。

神社では神前に献上された酒・魚・野菜などが授与されるジャンケン争奪戦があり、児童と共に参加しました。決勝まで勝ち残る児童もいましたが最後の最後で負けてしまい献饌品を頂くことはできませんでした。

子ども和太鼓演奏では小さい子も迫力のあるたたき方を披露していました。地域の方からは「来年はわかなの子どもも和太鼓演奏に参加してね」とのお言葉を頂き、来年のわかなの子どもたちの演奏が今から楽しみな秋祭りとなりました。 保育士 瀬戸 純也



日帰り温泉バイキング

入浴後はバイキングです。当日のメインである蟹を持って来る子どもたちでしたが、蟹の殻を剥き慣れていない為悪戦苦闘。コツを教えるとその後は上手に剥きとても美味しそうに頬張っていました。また、刺身を2回取りに行き、満足気に食べている子もいて、見ている側も嬉しくなりました。普段小食な子どもたちも、沢山食べており、『野菜も食べないとね』と言いサラダを持って来る姿にうれしくなりました。

お腹を膨らませた子どもたちは、「また露天風呂に入りたい！ありがとうございました！」と言いながら、ホテルのフロントの人たちにお礼を言っていました。また子どもたちが楽しめる外出を行いたいと思います。 児童指導員 長橋 洸太



川奈祭典

10月22日、川奈港で地域の祭典が開催されました。昔からの伝統で万灯(まんどう)を振るい漁師が力比べをする習わしがあり、この祭りには川奈の三町内(小浦町、宮町、東町)の万灯がでて三島神社の神前に奉納します。万灯の重さは65キロもあるとのこと。

コロナなどの影響でこの祭典は4年間中止でしたが、今年は、3町内の華やかな山車からお囃子が響き、久しぶりに賑やかさが戻ってきました。

午後は1階ユニットの小学生4名と、幼児3名を連れて、小浦町の山車を引かせてもらいました。幼児のHくんは、先頭で山車を引っ張りとても満足気で、その他の子どもたちも、真剣な表情で綱を引っ張っていました。

その後、子どもたちは、楽しみにしていた露店での買い物をし、「ダーツ」で景品の刀をゲットする子や、定番のりんご飴、チョコバナナを購入する子もいたり、祭りの雰囲気を楽しむことができ、とても満足した様子でした。 児童指導員 岩田 弘和



